ISSN 2758-2965

神奈川歯学

KANAGAWA SHIGAKU

神奈川歯科大学学会雑誌　第58巻 第1号

The Journal of the Kanagawa Odontological Society

Vol.58. No.1　June 2023

目　次

総　説（総会特別講演）
唾液から見える全身の代謝
……杉本昌弘（1）

ORIGINAL ARTICLE
Association of initial implant fixation with implant diameter, length, and drilling protocol
……Kei NAKAMURA, Kuniaki KAWAI, Yoshimitsu OIDE, Sawako HOJO and Toshiro KODAMA（7）

原　著
ビーグル犬における β-TCP ブロックの頬側骨欠損部への適用に関する研究
……小島康佑，北條彩和子，中村　慧，曽根崇晴，小瀬貴之，大井手良光，西村允貴，吉野剛史，児玉利朗（18）
アクチバトールの新しい可動式説明模型の考案とその教育効果の研究
……窪田光慶，花岡孝治，山口徹太郎，菅谷　彰（36）

REVIEWS
Involvement of IL-17 and dental disease in palmoplantar pustulosis
……Tomoko SHIMIZU, Yoshinori JINBU and Keiichi TSUKINOKI（48）

症例・臨床報告
両側性唇顎口蓋裂の長期管理症例 ―思春期性成長発育期に治療が中断された１例―
……與儀　賢，堀口リラ，森崎彰将，平出隆俊（53）

宿題報告
光感受性物質を利用した口腔癌治療への光線力学療法の応用
……吉野文彦（61）

神奈川歯科大学学会研究談話会総説（令和５年２月 10 日開催）
歯科医療 DX が研究・臨床に与えるインパクト
……井田有亮（65）

講座紹介
小児歯科学講座
……木本茂成（68）

［論文紹介］

Association of initial implant fixation with implant diameter, length, and drilling protocol

中　村　　慧　他４名

神奈川歯科大学臨床科学系歯科インプラント学講座
高度先進インプラント歯周病学分野

本論文は，人工骨ブロックを用いたインプラント体の初期固定を埋入トルク値，除去トルク値，インプラント安定指数で比較・検討し，埋入プロトコル，インプラント体の長さと直径の各要因の影響力を評価することである。結果として，狭いインプラント窩形成を行うことによるインプラントの初期固定の向上が示唆された。さらに，インプラント体の長さが長く，直径の大きいインプラントを使用することでその効果は増大することが確認された。

ビーグル犬における*β*-TCPブロックの頬側骨欠損部への適用に関する研究

小　島　康　佑　他８名

神奈川歯学大学臨床科学系歯科インプラント学講座高度先進インプラント歯周病学分野

抜歯後の歯槽堤は吸収・形態変化を起こすため，骨造成が必要な場合がある。自家骨移植は採取量の制限，患者への侵襲，技術的習熟度を要するため，しばしば代用骨が用いられる。

本論文においては，新しく開発された*β*-リン酸三カルシウム（TCP）をブロック形状に整形することで自家骨移植の代替となりうると考え研究を行った。その結果，*β*-TCPブロックが骨移植材料として有用である可能性が示唆されたため，報告する。

アクチバトールの新しい可動式説明模型の考案とその教育効果の研究

窪　田　光　慶　他３名

神奈川歯科大学総合歯学教育学講座歯学教育学分野
神奈川歯科大学歯学部歯科矯正学講座歯科矯正学分野

アクチバトールは，古くから使われている矯正装置であるが，簡便な構造から，現在も混合歯列期で使用されており，学部教育で重要な装置の一つである。しかしその機能や誘導面の意義を理解するのが最も困難な装置でもある。そこで，学生が理解しやすい可動式の説明図を考案し，講義の際に用いた。そして教育効果を調べるためアクチバトールの講義前後に試験を行った。その結果，有意差をもって教育効果の向上がみられた。

Involvement of IL-17 and dental disease in palmoplantar pustulosis

清　水　智　子　他２名

神奈川歯科大学高度先進インプラント歯周病学分野
神奈川歯科大学環境病理学分野

掌蹠膿疱症（PPP）は，手掌や足底に無菌性の膿疱を形成する難治性皮膚疾患である。近年，IL-17 が PPP の発症に関連することが報告されており注目されている。PPP は，歯性感染病巣の治療により皮膚症状が改善することから歯科疾患と関連が深い。特に根尖性歯周炎や歯周炎では，炎症部位での IL-17 産生が観察され，血中濃度の上昇に影響している。そこで，IL-17 に注目して，PPP と歯科疾患の関連性について解説した。

両側性唇顎口蓋裂の長期管理症例
―思春期性成長発育期に治療が中断された1例―

與　儀　　賢　他３名

医療法人社団お茶の水会小石川矯正歯科クリニック

今回，著者らは８歳７か月の両側性唇顎口蓋裂の男児の治療を開始したが，思春期性成長発育期での治療の中断（11 歳９か月）を経験し，その後 16 歳０か月で治療を再開することになった症例を得た。治療再開時は初診時と比べ上下顎の関係は悪化し治療計画の大幅な修正を要した。その結果，顎骨骨切り術の併用および前歯部への補綴処置の計画となった。治療再開から６年９か月後（22 歳９か月）保定に移行し，その後２年６か月（25 歳３か月）の経過観察を行い咬合が安定していることを確認し通院を終了した（16 年８か月の長期管理）。本症例では治療中断の要因や，そのことにより生じた治療計画の変更と治療経過を報告し，併せて長期管理症例が円滑に遂行されるための要件を考察したので報告する。

編　集　後　記

2023年5月より新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し，街のようすも少しずつ以前の状態に近づいてきたようです。一方で，国内の学会ではオンライン形式の利点を多くの方が体験し，オンライン開催やオンデマンド参加などができるようになったことは学会参加へのハードルを下げたといえるでしょう。2022年10月にアメリカ歯周病学会に久しぶりに参加しました。マスクをしていることが逆に気になるような環境で，海外と国内では習慣がかくも異なるものだと実感いたしました。

さて，神奈川歯学第58巻1号では，杉本昌弘先生の総会特別講演に関する総説，吉野文彦先生の宿題報告，井田有亮先生からは研究談話会総説，木本茂成先生には講座紹介をご執筆いただき，さらには学位論文や原著論文など，変わらず充実した内容の掲載となりました。関係されたみなさまに心より感謝申し上げます。今後も神奈川歯学のますますの充実を図ってまいりたく，ご協力のほどよろしくお願いいたします。

（神奈川歯学編集委員会編集長　歯周病学／教学部　青山典生　記）

神奈川歯科大学学会雑誌
編集委員会

委員長　猿田　樹理
編集長　青山　典生
副編集長　讃岐　拓郎

鈴木　健司　東　雅啓　星　憲幸
室町幸一郎　山口徹太郎　吉田　彩佳

神奈川歯科大学学会理事
木本　克彦　猿田　樹理　高橋　俊介　槻木　恵一
二瓶　智太郎　半田　慶介　山本　龍生

神奈川歯学　第58巻　第1号
令和5年6月30日　発行
発行者　槻　木　恵　一
発行所　神奈川歯科大学学会　電話　046-823-9415
横須賀市稲岡町82　神奈川歯科大学内　〒238-8580
印刷所　株式会社　福田印刷　電話　093-371-3231
福岡県北九州市門司区原町別院3-5　〒800-0037